

府中市教育委員会会議録

1 開会の日時

令和6年8月8日（木） 教育センター 会議室
（令和6年第8回） 13時00分 開会

2 出席委員

荻野教育長、高橋委員、和知委員、藤井委員、森山委員（5人）

3 委員以外の出席者

大川教育部長 大森教育政策課長 宮田学校教育課長
津田学校教育課主幹 和田教育政策課教育推進係長 大垣学校教育課主査

4 会議に付した議案の題名

第22号 令和7年度中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書の採択について

5 審議の大要並びに結果の概要

議案1件について審議を行い、同意の議決を得た。

6 議決事項

議案第22号 採択

7 協議事項

なし

8 報告事項

(1) 大川部長

- ・第19回小中一貫教育全国サミットinびんご府中二次案内について

次回 令和6年8月22日（木）午後1時30分～

次々回予定は 令和6年9月24日（火）の週で調整

16時50分 終了

会議録署名者 委員

委員

書記

教育委員会会議（8回）

教育長 皆さん、こんにちは。激しい暑さが続く中ですが、学校も7月20日から夏休みに入りまして、来週、8月13日から16日までを一斉閉庁日として、8月25日までが夏季休業日となります。

本日は中学校及び義務教育学校の後期課程で使用する教科用図書の採択という、府中市教育にとって今後の取組を左右する重要な、そして、審議に時間を要する議案がございます。

早速ですが、令和6年第8回の教育委員会会議を開会いたします。

まず、会議録署名者の指名をいたします。

高橋委員、和知委員、よろしくお願いいたします。

（はいの声）

教育長 それでは、会議録の承認に入ります。前回の会議について事務局の報告を求めます。

和田係長。

和田係長 それでは、失礼いたします。令和6年第7回会議について報告いたします。

第7回会議は、令和6年7月26日金曜日、午後1時から、教育センター会議室において、教育長、教育委員全員と大川部長ほか事務局6名の出席で開会いたしました。

議案は2件で、委員の委嘱に係るものが1件、府中市いじめ問題調査委員会の報告等に係るものが1件でした。

会議の冒頭で、府中市いじめ問題調査委員会報告書等に関わる議案について、会議の公開、非公開の取扱いを確認し、委員全員の同意により、会議を非公開とすることに決しました。

まず、議案第20号、府中市立図書館協議会委員の委嘱については、委員の任期満了に伴い、新たに委員を委嘱するものであることを確認し、可決しました。

次に、協議事項としまして、令和6年度教育委員学校訪問に関わり、全体を通しての学校訪問の在り方について協議を行いました。

報告事項としましては、荻野教育長から、7月5日に行われた広島県教育委員会の行政視察、視察後の教育長ミーティングの概要について、夏季の中学校の各地区大会の状況について報告があったほか、教育部長からは、府中市議会6月定例会の概要についての報告、教育政策課から

は、7月20日からのサテライト国府展、歴史民俗資料館のスポット国府展についてのお知らせ、学校教育課からは、学校の状況や生徒指導の状況について、そして、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について報告がありました。

そして、連絡事項として、議会開催日程を確認し、一旦休憩としました。

再開後は、学校教育課、小寺主幹、竹内主幹、上列主査が出席し、議案第21号、府中市いじめ問題調査委員会報告書等について非公開で審議し、承認しました。

会議の全てを15時25分に終了しております。

以上でございます。

教育長 それでは、会議録の承認を求めます。御異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声)

教育長 御異議なしと認めます。よって、会議録を承認いたします。

それでは、本日の議案に移ります。

本日の議案は1件で、教科書採択に関わるものです。

議案に入る前に、教科書採択に関しての会議の公開・非公開についてお諮りしたいと思います。

府中市教育委員会では、人事案件の場合などを除き、教育委員会会議は原則公開としておりますけれども、教科書の採択につきましては、その都度公開・非公開をお諮りし、委員の皆様のお意見を諮りした上で非公開としてこれまで審議をしております。

審議は非公開ですが、議事録によって発言者、発言内容、採択結果等を全てホームページ上で公開をしております。

また、昨年度からは、教科書採択については、審議を含め全て公開という形で進めておるところでございます。

教科書採択の会議におきましては、意思決定の過程を多くの市民の方に見ていただく、そういう機会をしっかりと設けて、情報公開の観点からできる限り公開が望ましいということで取り組んでいる状況でございます。

そうした状況もありまして、教科書採択に係る会議を、公開とするのか非公開とするのか、御議論をいただきたいと思っております。御意見はいかがでしょうか。

情報公開の観点からできる限り公開が望ましいと考えますが、皆様いかがでしょうか。

(異議なしの声)

教育長 それでは、公開がよいという意見に対して賛同いただきましたので、議案第22号の教科書採択に関する議案の審議については公開といたします。

次に、本日、教育委員会会議の傍聴をしたいという申出を複数いただいております。事前に会場の大きさの観点から5名程度というふうにしておりましたけれども、本日9名の傍聴の希望をいただいております。

教育長の判断として、傍聴につきましては希望者全員に入ってくださいということによろしいでしょうか。

(異議なしの声)

教育長 それでは、本日傍聴していただける皆様にお伝えしたいと思います。

受付でお示ししました府中市教育委員会傍聴規則等を遵守していただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。議案第22号、「令和7年度中学校及び義務教育学校後期課程に使用する教科用図書の採択について」を議題といたします。

大川教育部長、大森教育政策課長、宮田学校教育課長、津田学校教育課主幹、和田教育推進係長、大垣学校教育課主査の出席を求めます。

それでは、提案説明をお願いいたします。

大川部長。

大川部長 それでは、議案書をごらんください。

1ページめくっていただいて、令和7年度中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書の採択についてでございます。

令和7年度中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書の採択について教育委員会の採択を求めるものでございます。慎重審議をよろしくお願いいたします。

教育長 それでは、教科ごとに審議を行い、採択をしていきたいと思っております。選定委員会の答申も踏まえて御意見を申し上げます。

それでは、まず、教科の国語から審議を行いたいと思っておりますが、御意見はいかがでしょうか。

藤井委員。

藤井委員 国語の調査研究の観点に、「本文の記述と図表等との関連」が「思考力、判断力、表現力」の項目にあり、恐らくこれに該当することかと思っておりますが、生徒にとっては古文というのは割ととっつきにくい教材になるのではないかと思います。光村図書の2年生の平家物語のところを見

てみますと、人物の相関図であったり、平家物語の主な戦いがどのあたりで起こった出来事なのかというような地図だったり、適切にふんだんに配置されています。これは本当にただ平家物語を読むだけではなく、そういった社会科の歴史分野の学習とも絡めて内容を理解することができて非常にいいと思いました。そういう工夫があるところが私はいいいと思いました。

教育長 今の御指摘は、光村図書145ページ、140ページからのところの御指摘でしょうか。

藤井委員 そうです。

教育長 ありがとうございます。
ほかにいかがでしょうか。

和知委員、いかがでしょうか。和知委員、お願いします。

和知委員 どの教科書もいろいろ考えられているとは思いますが、光村図書と三省堂の「学習の見通し」のところに、両社とも同じように思考の記事だったり、思考の方法の項目があったりします。同じようなことが記載されていますが、見やすさから言って、私は光村図書の「学習の見通しをもと」という最初の項目が分かりやすくいいと感じました。話す、聞く、書く、読むという見通しを立てて、どのように授業を進めていくかという方法について、字も少し大きく記載されています。分かりやすい、読みやすいということが一つの大切なポイントだと感じました。

教育長 ありがとうございます。事前の研究でもどの社も創意工夫がしっかりとされている中で、分かりやすさ、見やすさというところで評価をいただいたという御意見でございました。

ほかにいかがでしょうか。

森山委員。

森山委員 教科書はもちろん内容も重要ですが、子供たちは表紙の裏とか、裏表紙の裏とか、そういったところもフォーカスして見ることもあると思います。どの会社もいろいろ工夫されていますが、光村図書の裏表紙というか、340、341ページはICT活用のヒントということですので、分かりやすく表としてまとめられています。子供たちがこれからタブレット端末などを使って学んでいくというのがこれから日常になっていく中で、こういうものがうまくまとめられているというのはいいい部分ではないかと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。内容そのものにプラスアルファしてICT活

用のヒントであるとか、そういう配慮が効果的だという御意見をいただきました。

ほかにいかがでしょうか。

高橋委員。

高橋委員 これまでの国語の教材より少し多角的になってきていると思いました。文章と資料、いろんな資料を結びつけて読み取る力を養っていくというふうな国語の読解力、あるいは対話による学びの広がりをも促すといった試みが各社とも見えるのですが、その中でも特に光村図書が他社より少し明確に打ち出してあるのではないかと取れました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、ほかに御意見はよろしいでしょうか。

藤井委員。

藤井委員 国語の教材を読むときに、初めて出会った文章が文学的な文章だろうと説明的な文章だろうと、どう読めばいいかということが身に付かないといけないと思います。光村図書の最後に「学びのカギ」というものが資料として配置されていて、文学的な文章の場合、登場人物はこういうふうにして捉えたらいいとか、説明的な文章はこういうところに目をつけて読めばいいというようなことが端的にまとめられていて、こういうところを子供たちが読んで、それで、読解力を付けることができるのかなと思いましたので、これは大変いいなと思いました。

教育長 ありがとうございます。

それでは、ほかに御意見がないようなので、採択に移りたいと思います。

今御意見をいただく中で、評価が高いというふうに出てきました光村図書を採択するというのに賛成の方の挙手をお願いしたいと思います。

(挙手)

教育長 ありがとうございます。

それでは、国語につきましては光村図書を採択いたします。

続いて、書写に行きます。

書写につきましては、国語と同様に4社から申請が出てきております。御意見をよろしくお願いたします。

では、私のほうから。書写の授業は、小学校もそうですけれど、基本的には「とめ」とか、「はね」とかをしっかり教えられた記憶がありま

す。そういった意味では基本的なことをしっかり指導できる教科書がいいのではないかと思います。

また、丁寧に教えられる、指導できるという観点では非常にどの社も充実しているというふうに感じますが、一つ特徴的なものとして光村図書の書写については書き込むページが非常に充実しているというふうに感じたところがございます。

ほかにいかがでしょうか。

森山委員。

森山委員 どの会社もすごく学びやすいように工夫をされて、今のトレンドになると二次元コードをつけて動画に飛ぶという部分がすごく充実していると思いました。

その中で、お手本のようなページでも、光村図書は書き順まで書いてあり、二次元コードでその書き方の動画に飛べるようになっています。また、「他の文字にもチャレンジ」という部分の二次元コードを読み込んでみると、別の文字のところへ飛んで、そのPDFをダウンロードできるなどの工夫が凝らされているという印象を受けました。

どの会社もそれぞれいろいろ工夫して、子供たちが学びやすいような形を考えられているなというふうな印象を持ちました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。二次元コードから様々なコンテンツにアクセスできるということに評価をいただいたというところがございます。

ほかにいかがでしょうか。

和知委員、お願いします。

和知委員 光村図書ですが、筆遣いをきちっと筆を使って説明されています。ほかの会社も書き方は記載されていますが、筆の持ち方についても丁寧に説明されているのが光村図書だという印象がありました。

教育長 ありがとうございます。

藤井委員。

藤井委員 中学校になると行書を学習するようになり、小学校のときとは違う筆運びになります。それがどの教科書も書き始めからどうつながって、どこへ持っていくのかということが点線や矢印で非常に分かりやすく書いてあります。一斉授業で先生から指導を受けるという部分と、自分で教科書を見て、筆運びを自分なりにやっていくというところでは、どれも本当よく工夫してあると思いました。

その中でも光村図書のお手本が、筆先がどこを通っていくのかという

ところや「はね」、「とめ」の仕方がすごく生徒目線になっていて分かりやすいです。学校ではないのですが、私も生徒に行書を指導する機会があります。教える自分にとってもこの記述が大変分かりやすいと思いましたし、左利きの生徒への配慮と思える動画もあるので、そのあたりが非常に特徴的だなと思いました。

教育長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。採択に移ってもよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長

それでは、採択を行います。

書写につきましては、皆様の御意見を伺った上で、光村図書を採択するというところに賛成の方の挙手をお願いいたします。

(挙手)

教育長

ありがとうございます。

それでは、書写につきましては光村図書を採択いたします。

続いて、社会に移ります。

社会は地理的分野、歴史的分野、公民的分野に分けて行います。

まず、社会の地理的分野です。

地理的分野は4社から申請が出ております。

御意見はいかがでしょうか。

では、私のほうから、写真、絵、図、地図、グラフなどのデジタルコンテンツの量が非常に充実しているのは東京書籍なのかなと感じたところです。

また、トピックが非常に豊富で、探究課題が示されておりまして、子供たちにとっても学びやすいという印象を受けております。

さらに、細かいところでいうと、雨量と気温を示すグラフについてです。日本の地図とグラフの順番を合わせながら表記されており、細かい配慮も印象的に映りました。

ほかに意見はいかがでしょうか。

森山委員。

森山委員

この地理的分野というのは後で出てくる、例えば歴史とか、地図とか、そういう部分ともリンクする科目だと思えます。ですので、それとリンクする、イメージしやすさというのはすごく大事だと思っています。東京書籍や日本文教出版は、すごく写真などを入れてイメージしやすくされていますが、東京書籍は地図が多く入っていて、子供たちにとって、

場所のイメージがしやすい工夫がなされているなという感想を覚え
ました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。子供たちが学びやすい工夫を東京書籍では見
られるというふうな御意見だったと思います。

ほかにいかがでしょうか。

藤井委員。

藤井委員 気候から見た日本の特色という単元がどの教科書にもあると思いま
すが、東京書籍の該当ページを見てみると、写真や資料が豊富に使われて
いると思いました。教科書選定の観点として、資料等の配列、分量とい
うところがあると思いますが、このページだけでなく、全体を通して見
ても資料が大変豊富だなというふうに思いました。

もう一つ、日本文教出版の同じページを見てみると、写真の数は少し
こちらの方が少ないですが、写真が大きくて特徴的なところが分かりや
すく出ています。おそらく中学校1年生の最初で学習するのだと思いま
すが、これから学習していくという段階で教科書を見たときに、中学校
1年生が分かりやすい形にしてあると感じます。資料の量だけで比較せ
ず、色の使い方も見てみると、日本海のほうから風が吹いてきて、夏に
は反対に太平洋側から吹いてきてという図も夏と冬の違いなども色合
いがはっきりとして、分かりやすさはあると思いますので、どちらもい
いなというふうに感じました。

教育長 ありがとうございます。

高橋委員。

高橋委員 どちらもいろいろと満遍なく記載していただいているのですが、日本
文教出版には探究課題を設定してあり、生徒同士で議論したり、いろい
ろと理解力を求めたりというふうに導いています。数か所、随時記載さ
れておりますので、いろんなお考えの方がいらっしゃると思いますが、
このように生徒の学習を導いていくには、こうした記載も必要ではない
かと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

和知委員。

和知委員 私も日本文教出版の「節の問いを立てよう」という項目の部分で、気
づいたことを出し合ったり、節の問いで学習の見通しを立てたりできる

つくりになっていて、このような学習の流れが必要ではないかと思えます。また、写真がたくさん取り入れられて見やすい、読みやすいのが特徴かなと私は感じました。

教育長 ありがとうございます。

ほかに御意見はいかがでしょうか、よろしいでしょうか。

藤井委員。

藤井委員 先ほど、探究的に見ていくことができるという御意見が高橋委員さんからあったと思えます。東京書籍の教科書も、最初の段階で学習課題が提示されて、豊富な資料が出されて、それと関連づけてという構成になっています。それについては東京書籍も同じように探究的に学習に取り組んでいくという流れにはなっているのではないかと思いました。ですので、そういうところは主体的に学習に取り組む工夫と言えらると思えます。

教育長 御意見が出尽くしたということでよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 御意見を伺う中で、東京書籍、日本文教出版の2社について御意見をいただきましたので、この2社の中から採択するということがよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 では、2社の中からどちらかに挙手をお願いいたします。

まず、東京書籍。

(挙手)

教育長 日本文教出版。

(挙手)

教育長 ありがとうございます。

東京書籍に4名の挙手がありましたので、社会、地理的分野につきましては東京書籍を採択いたします。

続いて、社会の歴史的分野についてです。

歴史的分野は、8社から申請をいただいております。

それでは、御意見をよろしくをお願いいたします。

森山委員。

森山委員 帝国書院と東京書籍の最後のページにある年表を見させていただいていますが、どちらも色分けや他の国とどういう関わりがあったかということを分かりやすく示されていると思いました。

中でも帝国書院は、海外との交流という部分で、矢印も使われていて

すごく分かりやすいというふうに思いました。

一方で、東京書籍もすごく表裏でぱっと見やすいようになっているということもありますし、主な出来事をすごく分かりやすく書いてあるのでいいなと思いました。

同じ事柄についても会社によって表現の仕方が少し違うと感じた部分があります。両社とも年表に朝鮮と中国という2つの国との関わりという部分があります。例えば大正のところで朝鮮の欄を見ると、東京書籍は日本領という書き方をされています。帝国書院は日本の植民地という書き方をされています。歴史の捉え方というのは人それぞれだと思いますが、この同じ事柄に対して言葉の選び方で子供たちへの印象とか、教員の教え方とかいうものが変わってくるのではないかと思いました。どちらがいい悪いではなくて、これはもちろん歴史観とか、国家観とかそういう部分、個人の自由の部分でもありますけれども、こういう表現の仕方というのも教科書によって変わってくるのだなと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

藤井委員。

藤井委員 どの教科書も一番最初に、歴史の学習を進めるに当たってどういう見方や考え方をしたらいいのか、そういった基本的なところが述べられていると思います。

なぜ歴史を学ぶのかというところがなかなか生徒にとっても納得しづらいところかとは思いますが、こういう見方をしたらいいんだ、資料をこういうふうに見たらいいというようなことがどの教科書も最初の部分に述べられていて、そこはすばらしいなと思いました。

その中でも、東京書籍の一番最初に、浮世絵から何をどう見るのか、中世の絵巻物から何を読み取ればいいのか、その後に時期や年代の見方はどうするのかなどが記載されています。また、小学校で学習したことについても触れられています。小学校は人物や出来事を中心に学習すると思うので、それを踏まえた上で中学校の歴史の学習はこうなりますよというところだとか、時代ごとに比較して見ればいいんだとかいうようなことが本当に丁寧に述べられていて、その比較が大事であるということはもちろん他の教科書も書かれてはいるのですけれども、最初のところに歴史の学習を始めるに当たってそれが丁寧に述べられているのが指導する側にとってもいいのではないかと思いました。

教育長 ありがとうございます。
ほかにいかがでしょうか。

私のほうから。全社において当然ながら教科書検定をやっているわけですから、それに準じた学習内容を学べるという面ではクリアできているという前提のもとで、特に印象に残っている部分としては、例えば東京書籍でいうと、「もっと知りたい」というコーナーがものすごく生徒にとっては軽快に学べるコンテンツになっているというところですね。

もう一つ、先ほど出ましたように、帝国書院の「タイムトラベル」という、その時代につながりを持たせたイラストがふんだんに使われているので、子供たちにとっては時代を振り返ったとき、また、世界と日本の歴史をどう結びつけて学べるかという観点ではすごく学びやすい、そういう工夫がなされているという印象を受けております。

ほかにいかがでしょうか。

高橋委員。

高橋委員 どの出版社にしましても、デジタルコンテンツはいろいろと取り入れていただいた教科書だなというふうに思います。中でも先ほど森山委員がおっしゃられたように、歴史はいろいろな取り方をされやすいです。主観も入ったり、いろんな客観的なこともあったりするので、こうした歴史的な学習でこそ対話を重視したり、あるいは協働的にいろいろと学びを深めていくといった作業を進めていくことが一つの大事な授業になるのではないかなと思います。東京書籍にはそういったみんなで考えてみようとか、スキルアップにつながるような工夫も随所に織り込んでいただいていますので、こういったところも非常に効果があるのではないかなと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。
ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、御意見を伺う中で、社会の歴史的分野につきましては、東京書籍、帝国書院の2社について御意見をいただきましたので、この2社の中から採択するというところでよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、2社の中から挙手をお願いいたします。
まず、東京書籍はいかがですか。

(挙手)

教育長 東京書籍に5名の挙手がありましたので、社会、歴史的分野については東京書籍を採択いたします。

ここで、傍聴者の皆様にお知らせいたします。

府中市教育委員会傍聴規則の第5条の(4)で、傍聴には「してはならない行為」として飲食がありますが、本日大変暑くなっていますので、飲物を飲んでいただいても構いません。その点御承知おきいただければと思います。よろしく願いいたします。

続いて、社会、公民的分野に移りたいと思います。

公民的分野は6社から申請をいただいております。

御意見をよろしく願いいたします。いかがでしょうか。

和知委員。

和知委員 東京書籍の60ページに、「18歳でできること 20歳でできること」があります。今、成年年齢が18歳になり、子供も大人もちょっとまだ戸惑っているときだと思います。まだ18歳といたら学生なので、できること、できないことという記載が分かりやすく書いてあるなということが印象的でした。ほかのところも書いてはありますが、同じことでもやはりぱっとみて、ああ、これはできる、これはできないんだということがすごい分かりやすく説明されているというのが第一の印象でした。また、48ページの「基本的人権と個人の尊重」の部分では子供の人権について意見を出しやすいような工夫もされていると感じました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

藤井委員。

藤井委員 東京書籍の教科書は、表紙を開いたところに、公民を学ぶ意義がすごく分かりやすくまとめられていると思いましたし、現代社会の抱えている課題が写真で見て分かるように配置されており、持続可能な社会を実現するにはどうしたらよいかをこの公民で学習していくということが最初に学習できていいと思いました。少しめくっていきましたら、生徒にとって身近な話題を随所に配置して、こういうふうに自分たちの暮らしとつながっているのだということがずっと出てくるのは大変いいと思います。120ページのところに福山市神辺町の取組を取り上げてあって、府中市のことではないですけれども、すごく身近に感じられる題材だと思ひまして、いいなと思ひました。

教育長 ありがとうございます。学ぶ意義であるとか、身近な教材が特に示されているという御意見であったと思います。

ほかにいかがでしょうか。

森山委員。

森山委員 公民というのはほかの教科と違ってどちらかという社会でどう生きていくとか、国際社会でどう役割を果たしていくか、そういう割と生々しいものを学ばなければならない科目だというふうに思っています。

東京書籍と帝国書院を見させていただいて、東京書籍で言うと132ページの消費生活と経済の部分です。このあたりを見ていたときに、いわゆる経済の仕組みを教えるというのももちろん大事ですし、そこから続いて138ページとか、またその次にいくと、その中で発生するリスクとか、136、137ページも、そういう内容をイラストで分かりやすく表しているというのは、中学生という一番多感でもあり、いろんなものに興味のある年代の生徒にとっては必要な部分だなというふうに感じました。これが分かりやすく上手に表されているなというふうには東京書籍の教科書は思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

私のほうから。公民を学ぶことの意義について、先ほど東京書籍にしっかり書かれているというお話もありましたし、もう一つ出てきていた、帝国書院のほうもかなりその意義というのは明確になされているなというふうには感じました。

加えて、私が印象に残っているのが、単元の最後に、帝国書院の「アクティブ公民」であったりとか、「未来に向けて」「18歳の準備」とか、子供たちがこれから学んでいけるような、そういう工夫がかなり充実して記載されているという印象を受けております。

やはり公民的分野ということなので、これから生きていく上で必要な知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習する工夫において、それぞれの観点のバランスを見たときに非常によい教科用図書ではないかなと感じたところです。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、御意見を伺う中で、社会、公民的分野につきましては、東

京書籍、そして帝国書院の2社について御意見がありましたので、この2社の中から採択するという事によろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 では、2社の中から挙手をお願いいたします。

まず、東京書籍から挙手をお願いします。

(挙手)

教育長 4人の挙手がありましたので、社会、公民的分野については東京書籍を採択をいたしたいと思えます。

それでは、続いて地図に移ります。

地図につきましては2社から申請をいただいております。御意見はいかがですか。

では、私のほうからコメントさせていただきます。

こちらの教科用図書も非常に見やすく、地図を学習する上では非常によい教材だというふうに感じたところで、2社を比較して、情報量に着目してみました。

帝国書院の180ページと東京書籍158ページの「世界の統計」というところですが、世界の主な農産物とか、食料品の生産、また、世界の主な鉱山資源、工業製品の生産というところで見ると、年代で言えば、東京書籍は1年最新の情報が載せられてはいますけれども、項目としては帝国書院のほうが情報が多いということで、知識・技能の習得という観点の中でいうと、帝国書院のほうが情報量という面では非常に多いことが好印象に映りました。

ほかはいかがですか。

森山委員。

森山委員 両方とも地図帳ということなので、いわゆる事実というか、それが示してあるので、情報にそんなに差はないと思うのですが、例えばヨーロッパの地図について、帝国書院の49、50ページ、それから東京書籍の33、34ページを比べたときに、この帝国書院は、ヨーロッパは大戦などですごく領土が変わっていったというふうな歴史が分かるように記載してあります。そこを分かりやすくイラストで49ページに示していて、どういうふうに国境が変わっていったのかとか、国の編成が変わっていったのかということが分かるので、地図だけでなく歴史の部分にもひもつけて興味を持てるような学びにつながるというふうに思いました。

以上です。

教育長 藤井委員。

藤井委員 選定の観点の中に、「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫」とありますが、帝国書院の地図帳の中には、歴史の「歴」マークで何ページか記載があります。例えば110ページであれば近畿地方の歴史、文化、観光が分かりやすく、絵入りで示されていたり、それから、117ページだと、本州、中央部と5街道ということで、江戸時代の5街道が書かれていたり、西回り航路とか、東回り航路とか、点線で分かりやすく示されています。

地図そのもので歴史の授業をしたりということはあまりないかもしれませんが、どちらかといえば生徒が自発的にこのページを開いて、江戸時代はこうだったんだとか、こういう文化遺産が京都、奈良のあたりにあるんだなということをより関心を深めて学んでいくというようなことになるのではないかと思います。そういう意味ですごくいい資料になっているのではないかと思います。

教育長 ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、御意見を伺う中で、地図については帝国書院、東京書籍の2社について御意見がありましたので、この2社から採択をするということによろしいでしょうか

(はいの声)

教育長 では、2社の中から挙手をお願いいたします。

帝国書院。

(挙手)

教育長 5名の挙手がありましたので、地図については帝国書院を採択をいたします。

ここで10分間の休憩を取りたいと思います。次の再開は2時半からスタートさせていただきたいと思います。

(休憩)

教育長 それでは、再開をいたします。

続いて、数学の教科用図書についての審議を行います。

御意見はいかがでしょうか。

和知委員。

和知委員 関数の問題で、東京書籍の117ページ、「数量の関係を調べる」と

いう部分で、水槽の水の問題から結構分かりやすく取り上げられていると思います。生徒も理解しやすいのではないのでしょうか。学校図書は、二次元コードを読み取ってチャットで調べることができるというものがあります。自分で学習するときに質問しながら使うことができるという工夫もされていて、個々いろいろ工夫をされているなということが印象に残りました。

教育長 ありがとうございます。今の御意見は、主体的に学習に取り組むというときには、そういう観点を照らし合わせて東京書籍の「興味・関心を高める工夫」、学校図書の「問題解決的な学習を実施するための工夫」というところで、AIチャットを使った、個別のつまずきには対応できる工夫、そういうものがあるという御意見であったかと思います。

そのほかにいかがでしょうか。

森山委員。

森山委員 数学というのは、数学的な思考とか、能力を高めることも大事ですが、そういった考え方で表現したり、人に伝えたりといった能力も必要になってくると思います。東京書籍の2ページ、3ページのところで、デジタルコンテンツの使い方ということで、デジタルコンテンツを使ってどういうふうに物事を考えていくかという部分の説明があります。二次元コードで中身も見てみましたが、個人で学ぶということもできますし、全体でみんなでシミュレーションしてみるとか、考えてみるというふうな仕組みができていて、すごくいい教材になっているのではないかとこのように思いました。

教育長 ありがとうございます。観点の「内容の表記・表現」ということで、デジタルコンテンツの活用といったところも評価をいただいたというところです。

ほかにいかがでしょうか。

高橋委員。

高橋委員 数学が苦手とおっしゃる生徒さんからすると、やはり基礎が分かっているとなかなか次のステップ、段階に進んでいけません。そういったところでは東京書籍については、数学への関心や興味を高めるような仕組みづくりが記載されているように思います。

例えばフラッシュカードであったり、ワークシートであったり、また学びを深めていくような取組であったりというふうなところで、活用していく中で、数学に一步ずつ近づいていけるような構成になっていると思いました。

以上です。

教育長

ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長

それでは、御意見を伺うの中で、数学については、東京書籍、そして学校図書の2社についての御意見をいただいたと思いますので、この2社から採択をさせていただくということによろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長

それでは、2社の中から挙手をお願いしたいと思います。

まず初めに、東京書籍。

(挙手)

教育長

5名の挙手がありましたので、数学については東京書籍を採択いたします。

続きまして、理科に移りたいと思います。

理科については5社から申請をいただいております。

それでは、御意見をよろしくお願いいたします。

では、私のほうから述べさせていただきます。

小学校段階から言えることですが、理科というのは御承知のとおり、探究のプロセスを学び、探究を回していく教科であるというふうに考えております。

その上で、学習指導要領に示す探究のプロセスについて申請いただいた全ての教科書はきちんと明確に示されていると思うのですが、私は東京書籍が探究のプロセスを分かりやすく表現しているというところを特に評価したいと思います。

もう一つ、啓林館です。同じように探究のプロセスを明確に示していることに加えまして、単元の最後に「みんなで探究クラブ」という、学習状況に応じて、もう一度その探究を主体的に行っていける、学習していけるという工夫が他の社にはあまりない、そういう視点が記載されているというところを評価したいと感じたところです。

ほかにかがでしょうか。

藤井委員。

藤井委員

啓林館の例えば90ページだと、「なるほど」というコーナーがあって、飽和水蒸気量の理解がしやすいようにすごく分かりやすいモデル図で示されています。こういうふう書いてあると、目に見えないものも生徒がイメージしやすくて、理解しやすいのかなと思いました。東京書

籍のほうにも「なるほどね」というコーナーがあるのですが、ちょっと雰囲気は違っているというか、言葉は同じでよく似ているのですが、啓林館のほうがとてもイメージしやすく、苦手な子にも分かりやすいと思いました。それから、その章の終わりのところに、「深めるラボ」とか、そういうラボのコーナーがありまして、例えばさっきの水蒸気のモデルのところであつたら、「深めるラボ」のところ、雨の日はヘアスタイルが崩れがちというようなコラムみたいになっています。身近な実際の事象と学習した水蒸気のことを結びつけて、科学的に考えられるようにしてあって、そのあたりがとてもいいのかなと思いました。

教育長 ありがとうございます。

 ほかいかがでしょうか。

 高橋委員。

高橋委員 この理科につきましてもやはりまず興味を持ってもらうことが第一かなというふうに思います。興味を深めて、理解を高めていくことが重要であるとすれば、啓林館のほうの写真やイラスト、解説図などが非常に見やすく分かりやすいような記載があるというふうに思います。ですからそうしたところで写真やイラスト、解説から分かりやすく入っていく、理解を深め、そして疑問や課題を主体的に解決に導いていく構成になっていくのではないかなというふうに思います。

 以上です。

教育長 ありがとうございます。

 ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

 (はいの声)

教育長 それでは、御意見を伺う中で、理科は東京書籍、啓林館の2社について御意見がありましたので、この2社の中から採択するというところでよろしいでしょうか。

 (はいの声)

教育長 では、2社の中から挙手をお願いいたします。

 まず最初に、東京書籍。

 (挙手)

教育長 啓林館。

 (挙手)

教育長 それでは、啓林館に5名の挙手がありましたので、理科については啓林館を採択いたします。

 次に、音楽に行きます。

音楽につきましては、音楽一般と器楽・合奏、この2つの種目をそれぞれ採択をすることになります。それぞれ2社から申請をいただいているところです。

まず、音楽一般につきまして御意見をよろしくお願いいたします。

森山委員。

森山委員　音楽というのはもちろん学ぶことも大事ですが、自分が表現したいことをどういうふうに表現するかとか、そういう感性の部分だと思うので、いろいろな手段があるとは思いますが。教育出版の中学音楽1の64ページ。ここでコンピューターで表現しようというページがあります。これまで音楽は全部楽器とか声とか、そういうものでやっていくものだったのが、今はこのコンピューターで音楽をつくってそれを配信したりとか、人に伝えたりという手段が一般的になってきている中で、こういう項目をつくって、こういう手段もあるんだよということを子供たちに伝えてあげるといのはすごくいい内容だなというふうに思いました。

あと教育出版の中学音楽2・3下の54、55ページあたりで、ポピュラー音楽について海外のものなどを分かりやすく写真を入れているというのがあります。

一方、教育芸術社も音楽2・3下のほうで58ページからそういうふうなものがあるのですが、このあたりの写真やイラストを大きく入れてすごく印象深くできているなと思っています。

また、教育芸術社の60ページ、61ページです。特定のところにフォーカスするのですが、海外の音楽のアルバムジャケットを全部写真として載せています。教育出版はいわゆるアーティストの写真だけ載せているという感じですが、このアルバムジャケットというのは音楽を聴いていく上ですごく重要なファクターになるので、こういうふうにアルバムジャケットを入れているというのは、子供たちに印象づけるという意味ですごくいい手法だと思いました。

以上です。

教育長　ありがとうございます。ジャンルの表現の仕方というのはそれぞれ創意工夫されていて、森山委員がおっしゃったように、教育出版社のほうは、一つ一つ大きく表現できて見やすいという見え方もありますし、教育芸術社はそれに加えて、ジャンルごとの関連であったりとか、歴史までを踏まえて記載されているというところは、子供たちの学習においてはより効果的な表現の仕方なのかなと感じました。そういうお話であったというふうに思います。

ほかにかがででしょうか。

藤井委員。

藤井委員　今のポピュラー音楽のところと同じように思ったのですが、教育出版のほうはアーティストがピックアップされて、その音楽について詳しく書いてあるので、興味を持って、興味深くここを読んで関心が深まっていくという効果があると思います。

教育芸術社のほうは、先ほど教育長が言われたような、関連だとか、歴史だとかいうような、知識とか、音楽についての知識を重要視しているのかなという感じがします。そこにそれぞれの教科書の大事にしている部分、個性があるのかなというふうに思いました。

どちらもいいと思いますが、そうしたつくりの違いがあるのかなと思って、教育芸術社の2・3上を見てみました。48ページにオペラのアイダのページがあります。オペラはあまり生徒にとってはなじみのないものですが、曲を聴いたらアイダの曲はいろんなところで耳にする曲と分かります。そのすばらしさとか、オペラにどういう背景があるのか、舞台ではどんなことが行われているのかみたいなのを知らないと、なかなかこのアイダを鑑賞することは難しいです。教育出版社は確かにきれいな写真が出てはいるのですが、教育芸術社のほうは、先ほどのポピュラー音楽のところとよく似たスタンスかと思いますが、オペラの解説とオペラに関わる様々な人たちが図で示されていて、言葉もちゃんと入っています。こういう大きな舞台で一つの舞台をつくっていくんだということが大変よく分かると思って、そこには教育芸術社のよさがすごくあると思って見ました。

教育長　ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。

私のほうから1点、先ほどの音楽のジャンルの話をしましたけれども、違う観点として、教育出版社の最初の学習マップを見てみると、合唱、鑑賞、創作の学習の流れであるとか、関連性というのが非常に見やすいと感じました。よくまとめられていて、その進め方が明確になっているというところは学習者視点、指導者視点でも非常に分かりやすい表記になっているという印象を持っております。

ほかにかがででしょうか。

藤井委員。

藤井委員　どちらもその曲なら曲を学ぶときの目標が最初に書かれていますけれども、教育芸術社のほうは一文で書かれています。2つのこともありま

すが。教育出版のほうが端的にこのこととこのことというように、指導する側にとっても分かりやすい目標の示し方になっていると思って、そこは大変いいと思いました。

教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、御意見をいただく中で、この2社から1社を選ばせていただきます。2社のうちどちらかに挙手をお願いいたします。

まず、教育出版。

(挙手)

教育長 教育芸術社。

(挙手)

教育長 ありがとうございます。それでは、教育出版社のほうに4名の挙手がありましたので、音楽一般については教育出版を採択いたします。

続いて、音楽の器楽・合奏について御意見ををお願いいたします。

いかがでしょうか。

森山委員。

森山委員 これは的確な意見になるか分からないんですが、器楽・合奏について、楽器のことをいろいろ書いてあるので、そこまで大きな差はないのかなというふうに思います。先ほど音楽一般の教科書は教育出版社を選定して、この器楽・合奏のほうで、例えば同じ会社のほうが指導がしやすいのか、変わっても問題ないのかとか、そういうふうな部分もあるのかもしれないので、どっちも差がないのであれば同じ会社のほうが現場での指導がやりやすいのではないかというふうに思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

藤井委員、お願いします。

藤井委員 最初はどちらもリコーダーからという構成になっています。リコーダーのよさから入って行って、どちらも本当に吹き方や姿勢などについても丁寧に分かりやすく説明されていると思います。そこについては本当どちらもそれぞれにいいと思いますが、まずリコーダーを吹いてみようという感じになってほしいなと思うときに、確かに説明のところは丁寧なんだけれども、それは教育芸術社が理論的なことも含めてすごくきちっと書かれています、教育出版社のほうは吹いてみましょうという感

じに思えます。

アルトリコーダーは、小学生のときに使っていたソプラノリコーダーに比べたら大きくなって指遣いも少し難しくなるのではないかと思うのですが、でも、やってみて、音を感じて、この曲を吹いてみたいなどというふうに思いやすいのはどちらかといえば教育出版なのかなと思いました。

教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

本当に大きな差がないと思えたのですけれども、私は違いを見つけるとするならば、両方とも最初はリコーダーの指導、すごく丁寧に書かれてはいるんですけれども、より教育出版社のほうが初歩的なところからスタートしているというところは少し違いとして出ているのかなと感じました。

例えば「リズム de ゴー」とか、「しりとり歌」とか、本当に一番簡単なところから構成されています。次のステップのところをずっと意識された構成というのは、なかなか苦手な生徒にとっても入りやすい、つながりやすいというところは特徴かなと見たところでは。ほかにいかがでしょうか。

高橋委員。

高橋委員 先ほど教育長がおっしゃられたように、さほど差はないと思いますが、一つ音楽的要素で興味をそそるのが、教育出版の30ページと55ページに、管楽器、それから弦楽器等のそれぞれの楽器の特色や、特徴や相違点などを記載するようなコーナーがあるんですね。非常にこの楽器ごとの特徴とかが、特色、あるいはいろんなものの比較をして明記をするというのは非常に興味をそそる内容ではないかなというのがまず一点です。それから教育出版のほうの楽器の演奏の初期の段階では、手元のアップの写真が多いので、初期の段階でいろいろ勉強するに教育出版のほうを参考にさせてもらったほうがいいのかないかなと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、2社の中から採択をさせていただきます。

どちらかの挙手をお願いいたします。

音楽の器楽・合奏についてです。

教育出版。

(挙手)

教育長 5名の挙手がありましたので、音楽の器楽・合奏については教育出版を採択いたします。

続きまして、美術についてです。

美術は3社から申請をいただいております。

美術について御意見をよろしくお願いいたします。

森山委員。

森山委員 美術も先ほどの音楽と一緒に、どちらかという、自分が考えていることを表現するだとか、そういうふうな手法などを学ぶ科目だというふうに思っています。

そんな中で、例えば絵とか写真だけではなく、ロゴマークのデザインとか、いろんなものを取り上げて、それにどういう人々がどういうふうな印象を抱くか、絵を見てどんな音が想像できるかなど、どの会社もすごく工夫をしてコンテンツをつくられているというふうに思いました。

二次元コードで飛んだ先にも動画があったり、また全国の学生の作品が飛んだ先で見られたりとか、そういうふうな工夫もなされていて面白いなというふうに思いました。

私個人的にはこの美術というのはやっぱり印象に残るものとか、インパクトというのがすごく重要だというふうに思っていて、そういう意味では、開隆堂の表紙というのがすごく印象に残るといえるか、まず、上野公園のこの作品を選んだというのもすごいなと思いますし、さらにこれに凹凸をつけた加工をして表紙をつくっています。もうこの表紙だけで一つの芸術作品になっているなというふうに思っていて、例えばこういう教科書で学んだ子供たちが将来、ああ、美術といたら、あの恐竜の作品が載っていた教科書だみたいな感じで、印象に残るような教科書になるのではないのかなというふうに個人的に思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。そういう意味では興味・関心を高める工夫というところで皆さん表紙はすごくインパクトがある基準かなと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

藤井委員。

藤井委員 私は光村図書の教科書がすごくわくわくするなと思いました。一番最初、表紙の次に谷川俊太郎さんの文と生徒の写真とで「美しい」というところから始まって、その次を開けてみると、「美しいを探してみよう」ということで、何げない風景の中に美しいものがあるという、美しいも

のが美しいと思えるかどうかという問いかけだと思うのですが、美しいと思えるような美術教育をしたいと受け止めまして、全体を通してそういう構成になっているのかなと思いました。

14ページの、リンゴをもとに作品を生み出すという、何も無いところから、自分の中から生み出さないといけないから、苦手な生徒にとってはなかなか美術も苦しいところもあるかとは思いますが、でも、こういう教科書の作り方がしてあると、自分なりにリンゴをもとに、こんなリンゴを自分だったら考えるというアイデアが出せそうな気がします。有名な絵画もただ見るだけではなかなか分からないと思うのですが、誰もが目にしたことのある絵画や彫刻の作品を要所要所で入れて、それはこういうところがいいなというのを鑑賞して、自分の作品に生かすというような、そういうところがやってみたい気持ちを起こさせるような気がして、とてもわくわくする教科書だと思いました。

教育長

ありがとうございます。

私のほうから、私も特に光村図書と開隆堂の教科書はすごく印象に残りました。

まず、開隆堂で、先ほど森山委員もおっしゃっている、子供たちの興味・関心を引く工夫が非常にあるというところで高く評価したいと思います。

一方、光村図書は非常に色彩豊かに多くの作品が載せられていることであったりとか、特に、「体感ミュージアム」ですね、デジタルコンテンツを非常に充実させているという点では高く評価をしたいというふうに思っています。

若干よりよくなればいいなと思うところで言うと、紙質というのでしょうか、美術の教科用図書なので、見ていくに当たってどうしても蛍光灯に反射するような紙質とそうでない紙質では差があります。開隆堂は反射しにくい紙を使われているような印象を受けます。そこは学校は授業の上で幾らでもカバーしていけるものなのかなというふうに思いますけれども、そういうところの配慮とかいうのも子供たちの興味・関心を下げないという意味では大事な観点なのかなと思いました。

いかがでしょうか。

和知委員。

和知委員

どちらもここがいいとかあるのですが、一つ私が得にいいなと感じたのは、光村図書の資料です。どんな授業でも手元に置いておいて、機械の使い方だったり、工具の使い方だったり、写真の撮影をするときのポ

イントだったり、色の見方だったりとかを見られるので、この資料はいいなと感じました。

教育長

ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長

それでは、御意見をいただく中で、開隆堂、光村図書の2社について御意見をいただきましたので、この2社から採択をさせていただくことでよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長

それでは、2社について挙手をお願いいたします。

美術について、まず1社目、開隆堂がよりよいと思われたら挙手をお願いいたします。

(挙手)

教育長

光村図書。

(挙手)

教育長

それでは、光村図書に4名の挙手ありましたので、美術につきましては光村図書を採択いたします。

続いて、保健体育についてです。

保健体育は4社から申請をいただいております。

御意見をよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

では、私のほうから、全ての社を見させていただく中で、特に、今、子供たちに様々な単元の中でも心身の機能の発達に関係する健康という部分については、ものすごく子供たちにとって学ぶ機会はこの保健体育の中であるのかなというふうに思っています。

その中で、例えば東京書籍でいうと、中学生の性情報の入手先というのは、ほかの社でも記載はあるのですけれども、その選択肢といいますか、選ばれている項目がすごく細分化されていて、情報量としては非常に丁寧な記載をされているという印象があります。

一方で、大修館書店は、性的マイノリティーとか、性の多様性についての記載が他の社に比べて非常に多く記載されていて、すごく深く学習できる、そういう教材になっているかなという印象を受けております。

ほかにかがででしょうか。

それぞれ特色があって、この社にはこの記載が充実していて、他社はこういう部分は充実させているとか、それぞれの特色があろうかと思えます。その中で、御意見や何か評価できるポイントというのを出してい

ただければと思います。

和知委員。

和知委員 東京書籍の巻末のスキルブックですが、いろいろリラクゼーションの方法だったり、蘇生術があったり、そのように分かりやすく載せてありました。今様々なことが起きるので、子供たちを守り切れないこともあると思うのです、災害とかいろんなことがあって。だから子供も自分の身は自分で守れるようにある程度のことを知識として知っておくというのは大切なことなのかなと改めてこの教科書を見せてもらって感じました。いいことだと思います。

いろいろなことを知っておくといざとなったときに、すぐ調べられるのだけれど、ネット環境だけでは電波も届かなくなったときに大変なことになると思うんです。でも、知っていたら、ある程度知識として残っていたら助かる命もあるのかなというのを感じました。

教育長 ありがとうございます。観点の「知識及び技能の習得」というところで、こういうのはスキルで統一して求められているという部分については非常に分かりやすいのではないかという御意見だったと思います。

ほかにいかがでしょうか。

高橋委員。

高橋委員 保健体育となると、デリケートなことやいろんなことも含めて情報は収集しておくことが必要かなというふうに思います。東京書籍が項目ごとに分かりやすくまとめていて、いろんな情報や知識がすんなり目から耳から頭から入ってくるような気がします。

ただ、各章のまとめのようなところで、東京書籍はいわゆる情報記載をまとめとして書いてありますけれども、学研は、アンケート方式みたいな形を取っており、それぞれの生徒の確認作業を取りながら改めて認識を深めていくというふうなまとめ方にしてありますので、こちらも一つの冥利はあるのかなというふうに思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

藤井委員。

藤井委員 どの教科書もそれぞれの章の終わりに特集というか、ちょっと発展的なというか、その章で学習したことに関連した資料をそれぞれ工夫して記載してあります。少しずつテイストが違いますが、そこにすごく工夫を凝らしているなということがよく分かりました。例えば大日本図書だ

と、心身の発達と心の健康を学習した最後に脳と神経の関係だったり、リラクゼーションの方法が出てきたり、大修館書店だったら、ストレスと脳の健康ということが取り上げられていたり、はるな愛さんからの「居場所はあるよ」というメッセージが掲載されていたり、学研も東京書籍も章末には必ずそういうトピックスが述べられていて、とても工夫されているんだなというふうに思いました。

教育長 よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、議論をいただく中で、4社全て御意見いただきましたので、東京書籍、大日本図書、大修館書店、学研の4社の中から採択をさせていただきます。よりよいと思われるものについての挙手をお願いいたします。

保健体育についてです。

東京書籍がよりよいと思われる方、挙手をお願いします。

(挙手)

教育長 それでは、東京書籍に5名の挙手がありましたので、保健体育につきましては東京書籍を採択いたします。

それでは、10分間休憩を取りたいと思います。3時55分に再開をさせていただきます。

(休憩)

教育長 それでは、再開したいと思います。

続いては、技術・家庭のうちの技術分野についての審議をお願いしたいと思います。

技術分野については3社より申請をいただいております。

それでは、御意見をよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

森山委員。

森山委員 今見させていただいた中で、東京書籍が最初の4ページ、5ページのところにデジタルコンテンツを活用しようというページがあって、ここが他の教科でもあったのですが、このリンク先がかなり充実していて、いろいろ見させていただきましたが、いわゆるよくある動画とか資料だけではなく、思考ツールなどの自分でテキストを書き込んでそれを付箋のように貼っていくとか、ワークシートで自分で考えてテキストを書き込んで後で確認するとか、そういった工夫がなされていて、自分で自主的に、主体的に学習していくというふうな部分ですごく有効な作り方をしているなというふうに思いました。

以上です。

教育長

ありがとうございます。デジタルコンテンツの活用という部分での評価をいただきました。

ほかにいかがでしょうか。

では、私のほうから、東京書籍、開隆堂についてコメントしたいと思います。

まず、観点の「目標の示し方」のところで言いますと、非常に工夫といますか、配慮がなされているなど思うのは、開隆堂です。全ての単元の最初に小学校や他教科とのつながりを明確に示している。また、その内容にもそのようなマークをつけて、教科との往還を図っているところでは他の教科書よりは優れているという評価をさせていただきたいと思います。

一方で、一つの例ですけれども、東京書籍でいうと、技術・家庭の技術分野においては、「基本的な知識及び技能の定着を図るため工夫」ということも観点としてあるわけですが、技能面での基礎的スキルについて非常に細やかに丁寧に記載されているところは他の教科書よりも優れているというふうに感じました。

ほかにいかがでしょうか。

藤井委員。

藤井委員

道具の使い方とか、特徴とかいったことを開隆堂も東京書籍も大変親切、丁寧に記載されているなどというふうに思いました。安全に授業をするという上でとても大事なことだと思い、東京書籍の木材の切削のところなどを見たんですけれども、写真でとても分かりやすく説明されているなどと思って、これはすばらしいなと思いました。

ただ、それまで小学校にはない教科なので、技術を学習するに当たって、最初のあたりに技術分野のガイダンスが載っていて、それぞれ雰囲気は違いますが、どちらもすごくよく考えられているから、どちらがどうとなかなか言いづらいんですけれども、比べてみると東京書籍のほうは先ほどのデジタルコンテンツのところでも出てきましたが、いろんな角度から技術分野の可能性というか、見方・考え方というようなところが身近なもの結びつけてすごくよく書かれているなどというふうに思いました。

教育長

ありがとうございます。

では、採択に移らせていただいてよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 今御議論いただく中で、東京書籍、そして開隆堂について御意見をいただきましたので、この2社から採択させていただくということによろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、2社のうちどちらを選ぶか、挙手をお願いいたします。技術・家庭の技術分野についてです。東京書籍がよりよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

(挙手)

教育長 5名の挙手がありましたので、技術・家庭の技術分野につきましては東京書籍を採択とさせていただきます。

続きまして、技術・家庭の家庭分野についてです。

こちらにも3社から教科用図書が出ております。

御意見がありましたらよろしくをお願いいたします。いかがでしょうか。

では、私のほうから、技術・家庭につきましては、東京書籍、教育図書についてコメントさせていただきたいと思います。

他の教科も同様ですけれども、まず、東京書籍は、デジタルコンテンツが非常に多種多様に組み込まれていると言えること、これが評価の観点に入っております。

また、「レッツスタート」として学習課題の部分、生徒に思考を促す工夫が非常になされているということ、生徒が視覚的に理解しやすい工夫が全体的になされているというところを非常に評価をしたいと思っております。

一方で、技術・家庭の家庭の分野においては、社会的課題、子供たちがこれから生きていく上で、特に消費者教育の部分について、知識・技能も含め重要視する必要があるのではないかなと思っております。そういう意味で、「私たちの生活」「消費生活」のところを比較しましたが、教育図書については、例えば契約の成立と未成年者取消権であるとか、クレジットの仕組みであるとか、非常に現代的諸課題に対応した、より細やかな、丁寧な、また、非常に子供たちがこれから生きていく上で必要となる、そういう学習をより充実できるような記載があり、教科用図書の中でも分量も含めて非常に重視した教材ということを感じております。この部分で教育図書の教科用図書については高く評価したいと思っております。

ほかにいかがでしょうか

藤井委員。

藤井委員 さっき教育長も言われた、消費者教育についてですが、今見ているのが東京書籍と教育図書の教科書です。東京書籍は、購入方法と支払い方法という観点で書かれていて、教育図書が販売方法と支払い方法で、前者の購入方法には結局販売方法についても記載されており、かえって混乱する面もあるのではないかと思います。しかし、若干混乱するかもしれませんが、消費者として育てていくという観点では購入方法というような学び方が大事なのかもしれないなと思っています。

教科書の表紙が、教育図書は暮らしを創造することになっており、東京書籍は自立と共生を目指してと示してありますが、暮らしを創造するというのも、自立して共生して生きているということも一緒のことなのかなとは思いますが、さきほどの購入方法と支払い方法も自立するということを明確に考えるからそういう表現になっているのかなと思いました。そういう意味で、消費者教育は大事な部分なのかもしれません。

それから、調理のところを見てみました。家庭科は、毎日生きていくことにすごく直結した教科書ですので、「食べること」という題材とで、豚肉の生姜焼きが掲載されていたので比べてみましたが、これは、東京書籍の流れが作りやすい、分かりやすいと感じました。実際に材料をそろえて、この順番で調理していけば最終的には出来上がるという流れが非常によく分かるなと感じました。

教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

森山委員。

森山委員 最初、教育長も言われましたけれど、この東京書籍の教科書というのはやはりデジタルコンテンツの部分でかなり充実しているという部分もありますし、学びやすいというのもあります。

教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、議論をいただく中で、東京書籍と教育図書について御意見をいただきましたので、この2社から採択をさせていただくということによろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、技術・家庭の家庭分野によりよい、採択すべき教科用図書についてお諮りしたいと思います。

まず、東京書籍がよりよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

(挙手)

教育長 4名の挙手です。それでは、技術・家庭の家庭分野については東京書籍を採択とさせていただきます。

続きまして、英語についてです。

英語は6社から教科用図書として申請が出されております。

御意見をよろしくお願いいたします。

森山委員。

森山委員 東京書籍の教科書を見ていますが、この1ページのところにあるデジタルコンテンツ、学習に活用できるすごく充実した内容になっています。また、2ページ、3ページで「学習の見通しを立てよう」ということで、いわゆるゴールをきちんと設定がしてあるというのは、やはり英語を苦手とする生徒が今増えてきている中で、こういうふうに單元ごとにゴール設定をして学んでいくというのはすごく子供たちにとっても学びやすいのではないかというふうに思いますし、先生方にとっても指導しやすいのではないかというふうに思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。ゴールに向かって学習が積み重ねられるような、そういうアイデアがなされているという御意見だと受け止めました。ほかにいかがでしょうか。

では、私のほうから。評価の観点「内容の表現・表記」のところで、例えば巻末資料だけを見てみると、非常に東京書籍の内容が充実しているなという印象を受けています。

特に「ワードリスト」と呼ばれる巻末資料の中では、小学校で学んだ単語が明確に分かるような表記がなされていて、小学校との接続の部分でも非常に学習のつながりが持てるような教材ではないかなという印象を受けております。そこは評価をしたいというふうに思います。

ほかにいかがでしょうか。

では、もう1点。東京書籍の目次を見ていますが、題材だけでなく、活動の目標、文法事項まで記載をされているので、観点の中でいう「振り返りの工夫」なども非常に考えられた教材になっているのかなというふうに思いますし、全体として単元の言語活動の工夫というところもすごくなされているというふうにも見ております。

ほかに御意見はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、御議論いただいた中で、議論の中では東京書籍の御意見のみだったんですけれども、東京書籍を採択してよいかどうか、挙手をお願いいたします。

 (挙手)

教育長 5名挙手がありましたので、英語については東京書籍を採択させていただきます。

 では、続きまして、道徳について御審議をお願いいたします。

 道徳につきましては6社から教科用図書が出ておりますので、よろしくをお願いいたします。

 森山委員。

森山委員 道徳の教科書は大体いろんないいお話とか、そういったものが書いてあって読み物的なイメージであるのですけれども、日本文教出版は道徳ノートという別冊をつくってしまっていて、ここでそれぞれに対して自分の思ったことを書いたりとか、ちゃんとワークシートとしてあるので、ただ読んで何かを感じるだけではなくて、自分で書いて表現をするというところまで学べるいい仕掛けがつくってあるのではないかなというふうに思いました。

 以上です。

教育長 ありがとうございます。

 ほかにいかがでしょうか。

 和知委員。

和知委員 同じ題材が使われている光村図書と、それから日本文教出版を見えます。「魚のなみだ」という教材で、光村図書は40ページ、41ページ、日本文教出版は32、33ページで扱われています。同じ題材を使いながら、光村図書は、「誰かが不公平な状況にあるとき、あなたはどんな考えが持てるだろう」ということで、自分のこととして考えていこうという視点で問いが書かれています。

 日本文教出版はさかなクンが「中学校のときの経験から考えたことはどんなことだろう」と、同じようなことを聞いているようですが、考え方としてはこちらの光村図書のほうが、自分のこととして考えさせるという意味でよいと思いました。次の「学びプラス」では、漫画でいろいろな例を挙げて、「自分がどれに当てはまるのか」、「どういうふうにしたらいいのか」というような持っていき方というのが分かりやすくいいのではないかなというふうに感じました。

教育長 ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。

では、私のほうから。私は特に2社について評価をしたところを申し上げたいと思います。

評価の観点の「思考・判断・表現の育成」の中の「考え方を伝え合う活動の工夫」というところに関して、いじめの単元で、話し合いを促したりとか、また、この教材に書き込みができるような工夫が一番なされていたのは東京書籍なのかなという印象を持っております。

一方で、どの社もいじめのときについての記載はありますが、特に日本文教出版ですばらしいと思ったのは、それぞれの観点ごとにですけれども、視野を広げてというところで、「考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫」ということがこの道徳の評価の観点の一つになっておりますけれども、その内容がすごく充実しているというふうに思いました。

ですので、指導者にとっても、また、学び手である子供たちにとっても考える、まとめるという機会が増えるような教材というのは評価をしたいなということで、日本文教出版の教科用図書も大変すばらしいなというふうには感じました。

ほかにかがででしょうか。

藤井委員。

藤井委員 私は挿絵にも着目しました。日本文教出版は、写真もありますが、絵で表現されているものが多いです。読むのは中学生、思春期のちょっと難しい年頃の人たちだと思いますが、その挿絵の効果は大きいものがあると思います。リアルな自分の過去や中学生のリアルな思いとつながるような挿絵という、等身大の自分が見えるような、そういう挿絵だと思うものがたくさんあって、引き込まれる部分があるような感じがしました。

例えば3年生86ページの「ゴリラのまねをした彼女を好きになった」というのは、本当に中学生そのままみたいな絵だったり、「2通の手紙」は、動物園で働く登場人物に焦点を当てたような絵になっていたりします。漫画のようでありながら、登場人物の思いに引き込まれるような後ろ姿が描かれていて、また、その後ろ姿がそのままノートのほうにも掲載されています。それを基に自分の考えが書けるようになっているので、この挿絵はとてもいいと思いました。

教育長 ありがとうございます。教材の内容でより理解させるという視点の重要性もあるという御指摘をいただきました。

ほかにかがででしょうか。よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、御議論いただく中で、光村図書、日本文教出版、東京書籍の3社についてのコメントをいただきましたので、この3社から採択をさせていただくということでよろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、特別の教科 道徳によりよいと思われる教科用図書について挙手をお願いいたします。

まず、光村図書。

(挙手)

教育長 日本文教出版。

(挙手)

教育長 それでは、日本文教出版に4名の挙手がありましたので、特別の教科道徳につきましては、日本文教出版を採択とさせていただきます。

それでは、これで議案第22号については終了いたします。続いて、その他事務局から何かございますでしょうか。

大川部長。

大川部長 教育委員の机上に小中一貫教育全国サミットの二次案内をお配りしております。9月27日、28日、金、土、2日間にわたるのですが、ぜひ出席していただきたいと思っておりますので予定に入れさせてください。恐れ入りますが、会場は、各学園が1日目の会場になっておりますので、それぞれの学園に教育委員さんに参加していただいたら大変ありがたいなと思っております。ぜひよろしくをお願いいたします。

教育長 今日の採択結果等については速やかに報告していただく流れということでよろしいですか。めどとしてはいつぐらいでしょうか。

大垣主査 8月末でございます。

教育長 採択結果の何を公表する予定ですか。

大垣主査 これまでの議事録、教科用図書選定委員会答申、実施要綱などそういったものを全てと考えています。

教育長 分かりました。教育委員の皆さん、このことについて、何か御意見のほうがございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(はいの声)

教育長 それでは、長時間ありがとうございました。

和田係長 最後に1点よろしいでしょうか。8月にもう一回教育委員会会議がございまして、日程のほうは8月22日の木曜日、1時半から府中教育セ

ンターの会議室で行う予定になっておりますので、予定の確認をよろしくお願ひします。

また、次の9月の定例会ですが、最後の週で調整をさせていただき予定にしておりますので、よろしくお願ひします。

教育長

それでは、以上をもちまして、令和6年第8回教育委員会会議を終了いたします。大変お疲れさまでした。